

広報 いんざい

特別号

平成 26 年 10 月 3 日発行

発行：印西市 編集：秘書広報課広報広聴班
〒270-1396 印西市大森 2364-2 電話 0476-5111(代) FAX 0476-7242
ホームページ <http://www.city.inzai.lg.jp/> Eメール home@city.inzai.lg.jp

日量 1 トン減量で、5 千万円節約

4 日、ごみ減量を学ぶ講演会

焼却炉が日量 1 トン分、小さくなれば、炉は約 5,000 万円安くなる。今、私たちがごみ減量をどのくらい推進することができるかによって、印西クリーンセンターの新しい焼却炉の大きさが決まり、費用も決まります。ごみをどうやって減量すればいいのか。日本のごみ減量をリードする徳島県上勝町の NPO 法人、ゼロ・ウェイストアカデミーの藤井園苗さんが 10 月 4 日、印西市内で講演をします。

ごみ 34 分別

徳島県上勝町は、日本のごみ減量化の「聖地」と言われています。町長のリーダーシップによって、上勝町は、焼却と埋め立てを可能な限りゼロに近づけることを宣言しました(「ゼロ・ウェイスト宣言」)。ゼロ・ウェイスト運動とは、出してきた廃棄物をどう処理するのではなく、そもそもごみを出さないという考えです。

上勝町では、NPO 法人の



講師の藤井園苗さん

ごみを減らす暮らしづくり講演会

時 10 月 4 日(土)・午後 2 時～3 時 30 分 (受け付け 1 時 30 分～)。

場 イオンモール千葉ニュータウン・モール棟 3 階イオンホール。

内 テーマ「ごみが多い毎日に嫌気を感じている人へ～ごみの減量・資源化を取り巻く日本や世界のゼロ・ウェイスト運動～」。

◆講師・・・藤井 園苗さん (NPO 法人ゼロ・ウェイストアカデミー事務局長)。

対 市内在住の人。

定 120 人程度。

費 無料。

申 住所、氏名、電話番号を電話または、メールで下記まで (先着順)。定員に達しない場合は当日受付あり。

※参加者に、いんざい君特製エコバッグを進呈。

問 クリーン推進課 クリーン推進班 (☎内線 382・✉ cleanka@city.inzai.lg.jp)。

「ゼロ・ウェイストアカデミー」が町からごみ行政の企画、運営を委託されています。町民は自ら「ごみステーション」に自分が出したごみを持ち込み、34 分別していただきます。

視察が殺到

この試みは、全国の自治体関

係者の関心を呼び、10 年ほど前から、上勝町には全国から自治体職員や議員の視察が殺到しています。

上勝町と印西市は、自治体の人口規模が違いますが、ごみ減量のための基本理念は「再利用(リユース)」「削減(リデュース)」「循環(リサイクル)」であり、上勝町の試みは、印西市民と行政にとっても十分に参考になるものと思われれます。

世界と日本

10 月 4 日、印西市内のイオンホール(イオンモール千葉ニュータウン・モール棟 3 階)

で開催される講演会では、ゼロ・ウェイストアカデミーの事務局長、藤井園苗さんが日本と世界のゼロ・ウェイスト運動を紹介し、私たちに何ができるのかを提言します。

自衛隊出身

藤井さんは、防衛大学校を卒業した後、航空自衛隊に自衛官として勤務した経験があります。これまで印西市で 2 回、講演したことがありますが、具体的なエピソードを交えつつ熱く語る講演スタイルは、印西市民に大好評でした。

炉の大きさ

次期中間処理施設(新たなクリーンセンター)の移転計画が進んでいます(裏面参照)。

当初、千葉ニュータウン 9 住区に次期中間処理施設の移設が計画された時には、日量 240 トンの処理が見込まれていましたが、今は日量 156 トンにまで削り込んだ計画になっています。炉の大きさが、日量で 1 トン小さくなれば、建設費は約 5,000 万円安くなる、と言われていますから、すでに当初案よりも 40 億円ほどを節約した計画になっています。

この計画が、その通り実現できるかどうかは、ごみ減量がどのくらい進むのかにかかっています。

問 クリーン推進課 クリーン推進班 (☎内線 382)。



徳島県上勝町では、町民が自分でごみステーションにごみを持ち込み、34 分別する（ゼロ・ウェイストアカデミー提供）

2次3次審査の結果と順位付け

■ 2次審査：100点からの減点評価（施設の建設・運営に適さない用地を評価する視点）

大項目	小項目	岩戸	滝	武西	吉田	現在地
生活環境の保全	地域住民の日常生活への影響	-5	-10	-10	-5	-5
	住宅・学校など	-5	0	-10	0	0
	病院など	0	0	-10	0	-10
自然環境等の保全	地域景観への影響	-1	-3	-3	-1	-2
	里地里山の保全	-10	-10	-7	-4	0
	生物多様性の保全	-5	-5	-5	-5	0
法規制	地球温暖化防止	-10	-9	-9	-10	-9
	航空規制	0	0	0	0	0
	各種規制の状況	0	0	-5	-5	0
	埋蔵文化財包蔵地 農用地区域 生産緑地地区	0	0	0	0	0
地盤の安定性	用途地域の適合	0	0	0	0	-5
	液状化予測地域 地形の状況（土砂災害など）	0	0	0	0	0
減点評価結果（最大-100）		-36	-37	-59	-30	-36
A（100点から減点後の点数）		64	63	41	70	64
2次審査の評価順位		(2)	(4)	(5)	(1)	(2)

■ 3次審査：100点までの加点評価（よりよい施設となり得る用地を評価する視点）

周辺住民の理解度・協力度	周辺住民の理解度・協力度の状況（高い候補地が望ましい）	9	6	7	27	7
経済性（概算事業費）	（用地取得、基盤整備、建設費用の合計が安価な方が望ましい）	29	29	29	29	30
地域社会貢献度	地域活性化への寄与（高い候補地が望ましい）	17	19	19	19	20
B（加点評価結果（最大100））		55	54	55	75	57
3次審査の評価順位		(3)	(5)	(3)	(1)	(2)
A + B（総合評価結果）		119	117	96	145	121
総合順位		(3)	(4)	(5)	(1)	(2)

印西地区環境整備事業組合（管理者・板倉正直印西市長）の次期中間処理施設整備事業用地検討委員会は9月30日、5つの候補地を点数評価した結果を板倉管理者に答申しました。点数評価は、旧印旛村の吉田地区の候補地が1位になりました。

次期中間処理施設の移転 「吉田1位」を答申

評価結果は、次のとおりです。

- 1位・吉田（145点）
- 2位・現在地（121点）
- 3位・岩戸（119点）
- 4位・滝（117点）
- 5位・武西（96点）

吉田地区では、住民の理解・協力が他の地域と比べると進んでいることが高い評価を受ける結果につながりました。

9月30日の答申を受けて、管理者は、副管理者（白井市長、栄町長）と管理者・副管理者会議を開催して協議し、12月に次期中間処理施設の移転予定地を決定します。

地元との協議、環境アセスメントなどの時間を考えると、クリーンセンターが移転するのは早くても7～8年後になります。

ごみ減量化が進めば、印西地区環境整備事業組合の新しい中間処理施設に必要な焼却炉のサイズが小さくなり、日量の処理能力が1トン小さくなると、炉の建設費が約5,000万円安くなる、という試算があります。固クリン推進課次期中間処理施設対策室（☎内線381）。